

2

分野特化型 クラブ

■広がった理由

- ・活動テーマが明確だった
- ・共感した人が外部から参加
- ・専門性が役割として生きた



左:児童養護施設の子どもたちと 左下:浴衣体験 下:
合宿を終えた子どもたちに拍手を送る会員 上:フード
パントリー「お福わけ会」 下段中央:子どもたちとの
交流



共感で広がる子ども支援クラブ



東京イマジンジョイナスRC 富倉 進

私は約 35 年前、元ロータリアンの父の勧めでロータリーに入会しましたが、当初はその魅力や意義を十分に理解していませんでした。

転機となったのは、地元の児童養護施設との出会いです。支援活動が続ける中で奉仕の意味を実感するようになり、次第に他クラブの会員からも「自分も関わりたい」という声が集まりました。施設の子どもたちと遊び、浴衣姿で楽しむ夏の行事を共にする中で、必要なのは物資だけでなく「経験の機会」だと実感しています。

その後、子ども食堂支援に関わる中で、支援が届いていない地域が存在を知り、食材を直接届けるフードパントリー活動を始めました。対象も、生活保護世帯やひとり親家庭など、本当に必要とする家庭に絞っています。

活動を継続するため、ロータリアンを中心に NPO ボセイドン&チルドレン協会を設立、現在は約 50 人規模で、児童養護施設支援と食材提供を並行して行っています。しかし、活動を続けるほどに限界も見えてきました。支援を必要とする家庭や子どもたちの数に対して、NPO 単体では対応し切れないのが現実です。そこで、各地に支援の輪を広げるため、全国に広がるロータリーのネットワークに着目しました。

当時の福原有一ガバナーから「専門性を持った特化型クラブの必要性」という話を聞き、これまでの活動と重なったことから、新クラブ創立を決意。新クラブアドバイザー・福原氏の下、最終的に 21 人で 2022 年にスタートしました。NPO 活動に共感した一般の方々も加わり、多様なメンバーで活動しています。

私たちは、他クラブから会員が移籍してくるのではなく、活動に共感したロータリアン以外の一般の仲間が増えることを大切にしています。活動報告をきっかけに入会した金融機関勤務の会員が会計面を支えるなど、それぞれの専門性がクラブを支えています。会員の会社の会議室を無料で貸り、弁当持参で例会を実施しクラブ運営を簡素化。年会費も抑えることで、持てる資源を子ども支援に集中させています。

現在は「お福わけ会」と称してフードパントリーを展開し、約 100 家庭へ食材を届けています。私たちが

目指しているのは、同様の活動が各地に広がっていくこと。会員増強とは数ではなく、社会課題への共感が広がり、その結果として仲間と活動が地域へ波及していくことだと考えています。真の親睦は奉仕活動の中に。ロータリーを通して何をするかを大切にしています。 (第 2750 地区 東京都)



